

見てみようよ！
常総市の会

2022年度
最終報告説明資料

■会の概要①

「見てみようよ！常総市の会」は平成27年関東東北豪雨で鬼怒川堤防が破堤、市内中心部が大洪水に見舞われた茨城県常総市において、水害の記憶を消し去る復興ではなく、水害記憶を継承しながらの復興を望む市民活動団体として、水害記憶・記録の継承活動、水害常襲地帯としての地域の歴史の勉強会、他県の大規模災害地におけるメモリアル活動の視察などを行ってきた。

■会の概要②

ことに水害記憶継承活動では、洪水に見舞われた市内の各地（許可を得た場所）に当時の高水位の高さを示すステッカーを貼る参加型スタディツアー「ステッカーツアー」を実施し、過去に当該チャレンジプランからも2箇年度支援いただいた。支援が終了した後も、中心地・水海道や2本の一級河川（鬼怒川・小貝川）を舞台にしたガイドウォークやカヌー体験を加えた水害継承イベントを実施してきている。

2022年度プランタイトル

オープストリートマップ
でつくる水害6年目の
常総市地図

■ 目的

- ・(平成27年関東東北豪雨災害から6年となる常総市において)水害の記憶を次世代に継承する
- ・水害の記憶の振り返りを、観光振興と抱き合わせた取組で推進する
- ・コロナ禍状況を踏まえ、リアルイベントだけでなく、これにweb空間の集合知構築を組み合わせたハイブリッド展開で、新しい市民参加防災活動のかたちをつくる

■チャレンジすること

- ・現実空間 & web空間のハイブリアルイベント展開一本槍ではない、コロナ禍状況に合わせた新たな取組のかたち(現実リッド展開)の模索
- ・防災メモリアルと地域観光振興を併せて行うこと(地域の「影」と「光」を同時に見つめることで進める防災意識喚起・継続

実施内容

オープンストリートマップ(OSM)の活用

OSMを活用した
“ケータイ写真撮影をしながら『**発見まちあるき**』”

+

7年前の水害の
痕跡を“発見”

街の面白いところ
を“発見”

その写真を
Web上の地図にみんなでプロットしていく「**参加
型地図づくり**」

オープンストリートマップ (OpenStreetMap 略称OSM)とは

オープンストリートマップ (OpenStreetMap 略称OSM)は自由に利用でき、なおかつ編集機能のある世界地図を作る世界共同作業プロジェクト。

地図が GPS 機能を持った携帯端末等からのデータをもとに作られていき、編集ツール上で道1本から手入力での追加も可能。

Google Map等既存地図には著作権があり使用は有料。ライセンスフリーの地図もあるが、それを加工した場合には著作権が発生し、ライセンス料などが必要になるケースもある。

OSMはそうした制約に対抗して、地図を自由に複製や頒布したいと考える人たちによって立ち上げられたインターネット上の専用サイトとそのサービスである。

OSMは「自由なウィキ世界地図」と称し、

地理情報データは自由に編集でき、地図を無料で利用することができる。

地図は、無料で誰でもいつでもプリントアウトできる。

また地図上の各種箇所データを「水害痕跡箇所」「風景美観箇所」「食べ歩き箇所」などをグルーピングレイヤーとして重ねていくことで編集が容易にできる

このことで、

今後の街歩きイベント等や行政イベント等に当該地図を活用していく／活用してもらえる。

観光イベントのマップについても「水害痕跡箇所」の表示を加えることで、水害の記憶を継承していける。

OSM の他地の活用例 (愛知県)

The screenshot shows a web browser window displaying the website '奥三河観光ナビ' (Okumikawa Tourism Guide). The browser's address bar shows the URL 'https://www.okuminavi.jp/access/openstreetmap.php'. The website header includes a search bar with the text '日本語' and a search button. Below the header is a navigation menu with icons and labels: 'TOP', '見る・遊ぶ・体験する', '食べる・買う・作る', '温泉・宿泊予約', '歴史と文化', 'モデルコース', 'イベント情報', and '交通アクセス'. The main content area features a large illustration of a rural landscape with a river, a bridge, and a train. Below this illustration is the text 'オープンストリートマップ: Open Street Map'. To the right of the illustration is a sidebar titled '奥三河を知る' (Learn about Okumikawa) with a list of links: '奥三河観光案内マップ', '奥三河への交通', '奥三河フォトライブラリー', '奥三河動画ライブラリー', 'パンフレットダウンロード', '関連WEBサイトリンク', and 'キャラクターダウンロード'. The Windows taskbar at the bottom shows the time as 11:35 on 2021/11/18 and the temperature as 13°C.

■期待される成果

- ・水害の記憶が薄れつつある中、新たな手法で関心を喚起できる
- ・当日リアルイベントに来訪できない人ものちにweb上で参加できる新しい形での展開で、空間的・時間的・身体状況的制約を超えた、広がりのある防災の動きをつくることができる

では、実際にやってみると
どうだったでしょうか？

(7月3日イベント実施)

イベントチラシ

2022
7/2
土

水害から6年10ヵ月…
街の過去と未来を見つめる

参加費無料
事前申込制

北水海道まちなか発見“千姫ウォーク”
+ 防災インタビュー記録映像上映 & ミニフォーラム

今年9月には関東東北豪雨水害から7年を迎えます。街中からは水害の痕跡がなくなりつつありますが、水害の危険性が無くなっているわけではありません。当会では今年も、水害の痕跡を街中に探しつつ、同時に町の面白い場所を見つける“発見ウォーク”を開催します。今回のサブテーマは大河ドラマ誘致活動も盛り上がる「千姫」。北水海道駅から千姫のお墓がある弘経寺までをケータイで写真を撮りながら歩きます。お寺では住職のお話も！ウォーク後は北水海道の『えんがわカフェ』で、今年撮影した、水害の記憶をめぐるインタビュー記録映像作品を鑑賞、ミニフォーラムを行います。皆様ぜひご参加ください。

12:40 北水海道駅集合・出発 …電車の場合：水海道方面から12:32着
下館方面から12:23着

- 12:35 北水海道駅集合/受付 開会ご挨拶
- 12:40 **第一部 弘経寺口へ発見まちあるき 出発**
- 13:20 弘経寺到着 千姫墓見学、御住職のお話
- 13:50 えんがわカフェに向かう路路発
- 14:30 えんがわカフェ(北水海道)着
- 14:35 ふりかえり会(参加者が撮影したケータイ写真を投影地図上にプロット)
- 15:00 第一部終了
- 15:10 **第二部 水害を振り返るインタビュー映像作品上映(約30分)**
- 15:40 ミニフォーラム
『私たちの街いま…水害7年目を迎えて、そして千姫を見つめて』
- 16:20 終了



弘経寺



昨年7月の水海道発見ウォークの様子

(内容は変更になる場合があります)

※集合場所の北水海道駅は改札一画所で、初めの方も迷うことはありません。駅員舎・トイレは各自済ませてからご集合ください(北水海道駅にはトイレ無)。
※ウォークのふりかえり会と、それに続く水害記録インタビュー映像作品上映を行う『えんがわカフェ』は、北水海道駅徒歩5分の場所にあります。
※夏季のウォークのための、各自水分を十分にこぼしてください。
※雨天決行。雨天で降雨開始の場合は、歩行中に降ってくることも考え、降りたため傘持参をお勧めいたします。
※お申し込みいただいた方でも当日体調が悪い場合は参加を見合わせてください。受付時に発熱がある方は参加をお断りします。

災害の教訓を次世代に語り継ぎ、地域の“光”を見つめる

見てみようよ！常総市の会

事前申込
お問合せ

染谷みどり (代表)
0uh2k6537852v2b@ezweb.ne.jp
090-1836-9444

見てみようよ！常総市の会は、平成28年2月、その約半年前に発生した関東東北豪雨水害の教訓を未来の世代に語り継ぐために結成された市民の会です。現在は水害の記憶(影)をふりかえるだけでなく、復興進む常総市の魅力(光)にも目を向け発信していこうとしています。

このイベントは真如発助成事業の支援を受けて実施しています

当日の記録

集合場所の駅前には水害時高水位を示すステッカーが
(当会が過去に設置)



駅前集合



開始挨拶



水害後は瓦礫の山だった公園(当会員が説明)





当時水害に見舞われたスーパー 高水位ステッカーが柱に



高水位ステッカーが貼られた施設のドア



炎天下を班別に歩く



千姫ゆかりの弘経寺へ



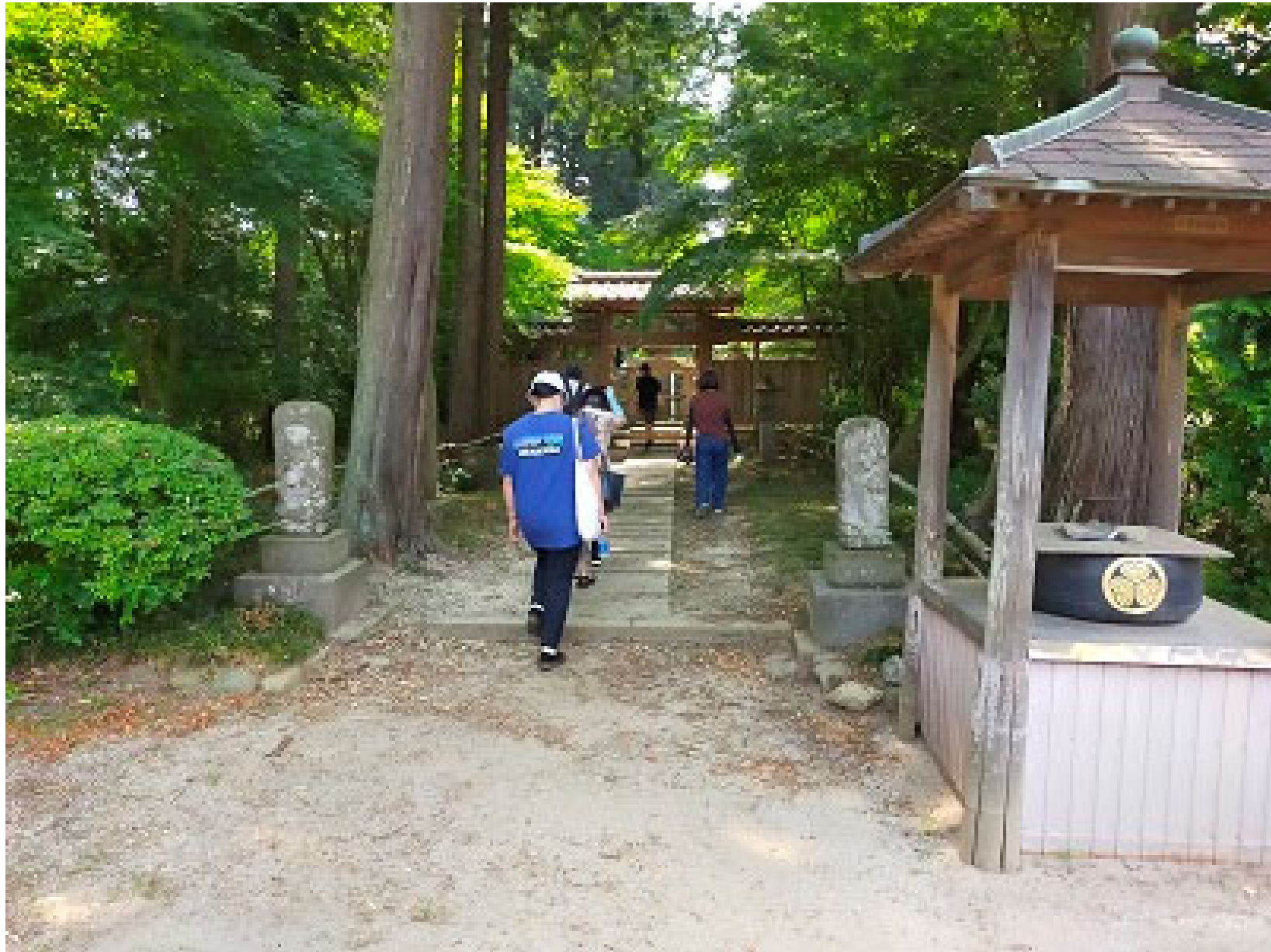


住職にご挨拶



住職が千姫の墓へ案内







千姫様の墓(千姫は徳川家康の孫 常総市は大河ドラマ誘致活動中)





住職による千姫様の歴史講和





振り返り会

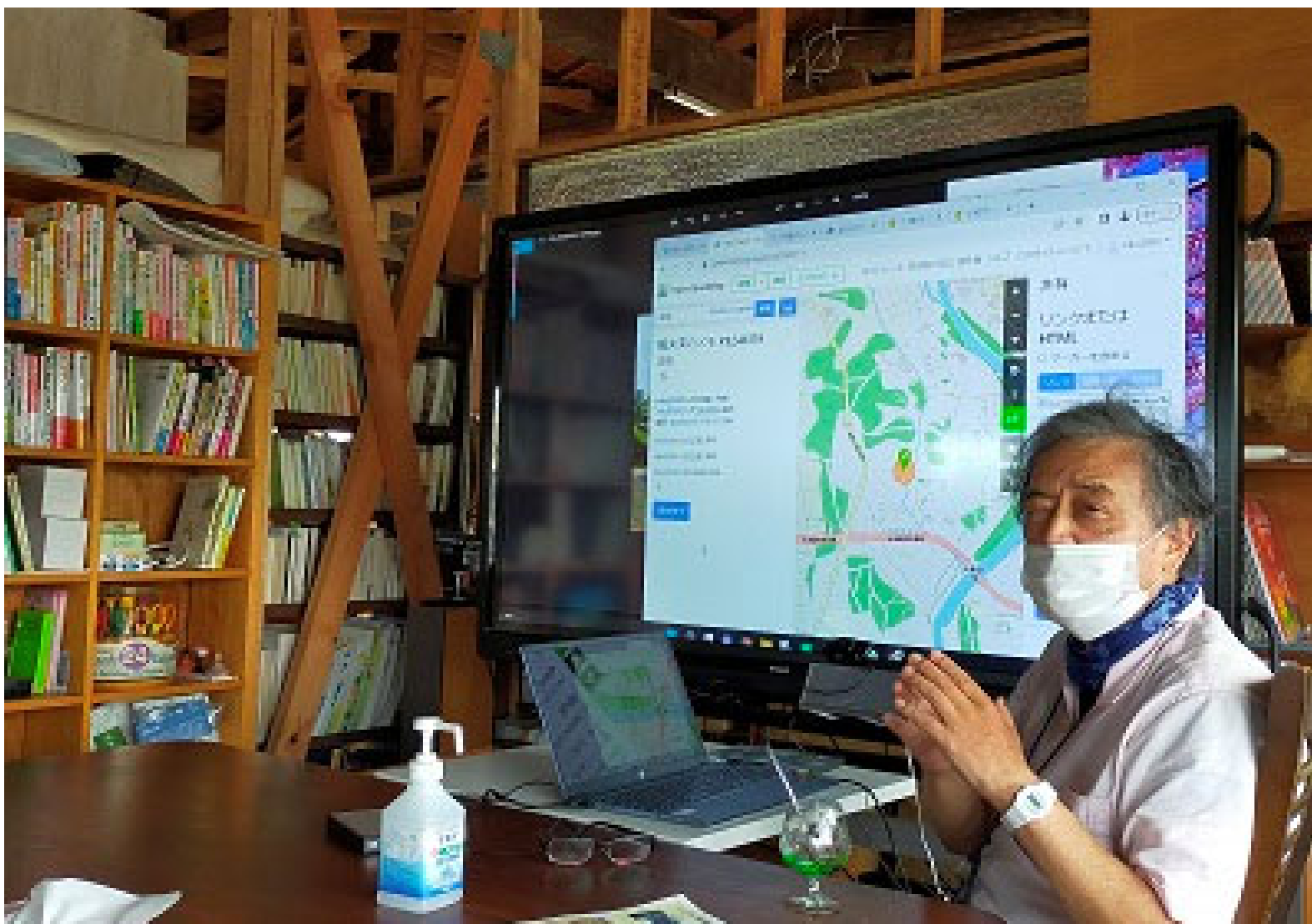
振り返り会の準備

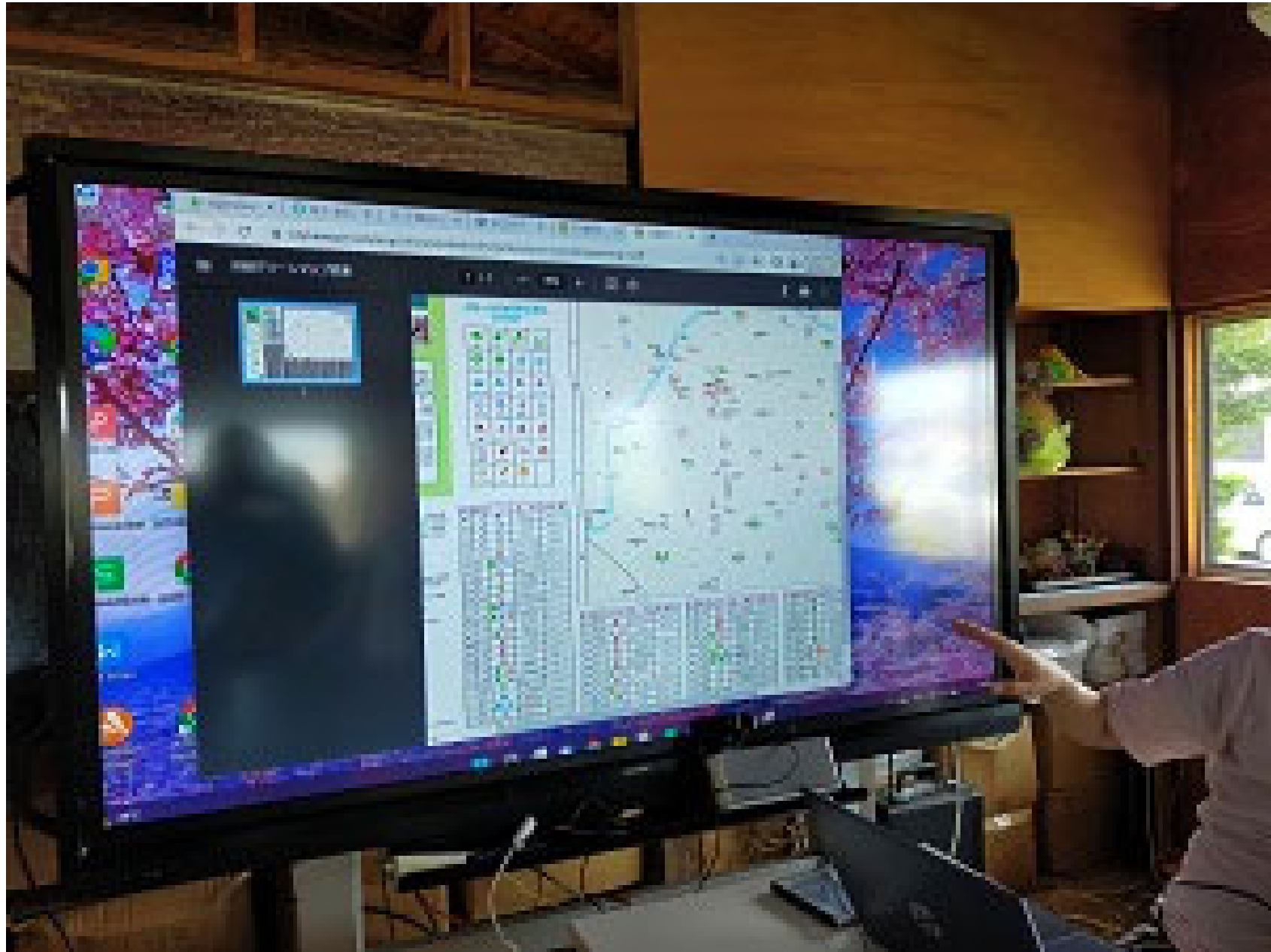


振り返り会の開始



オープンストリートマップの説明



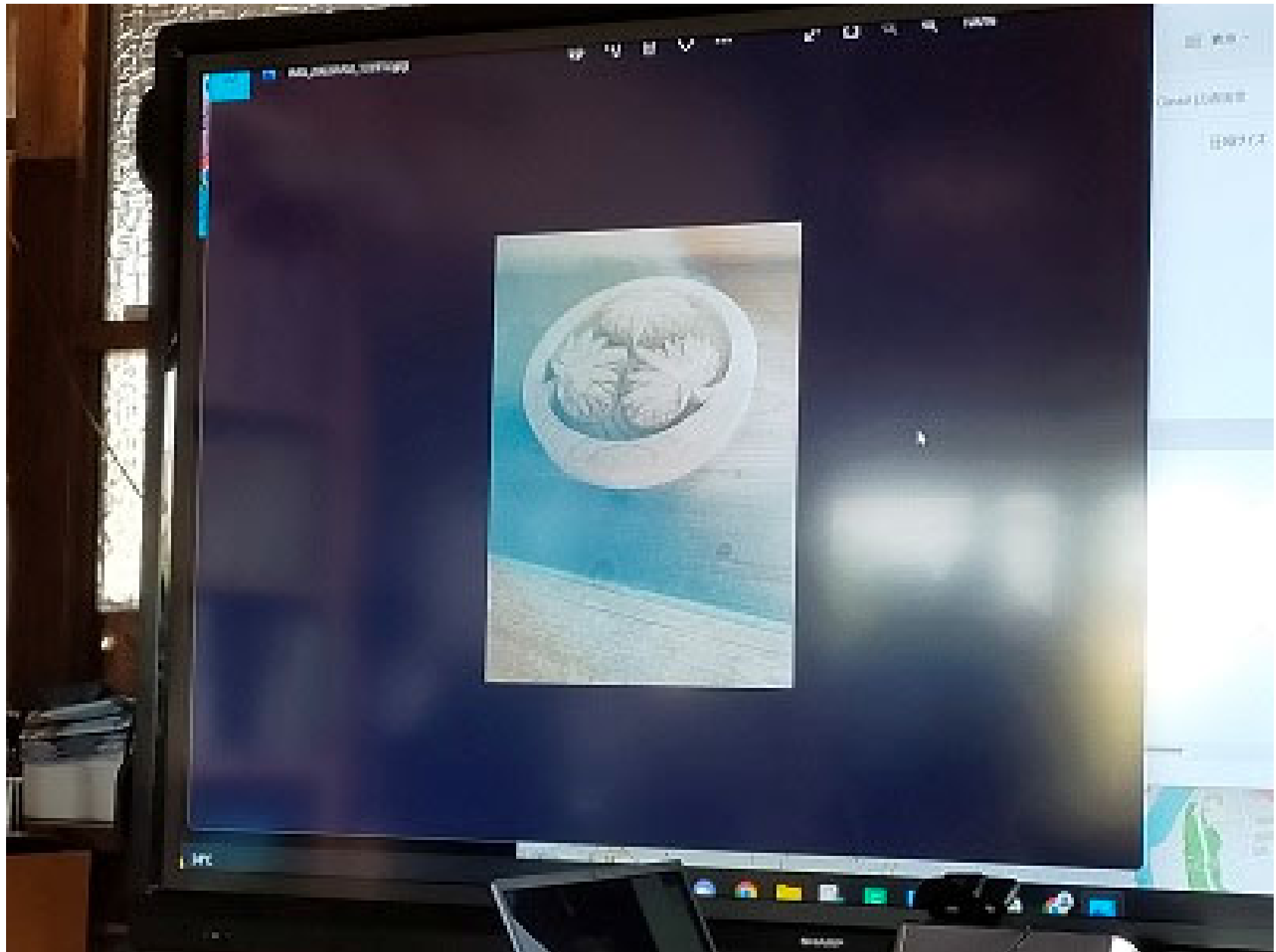


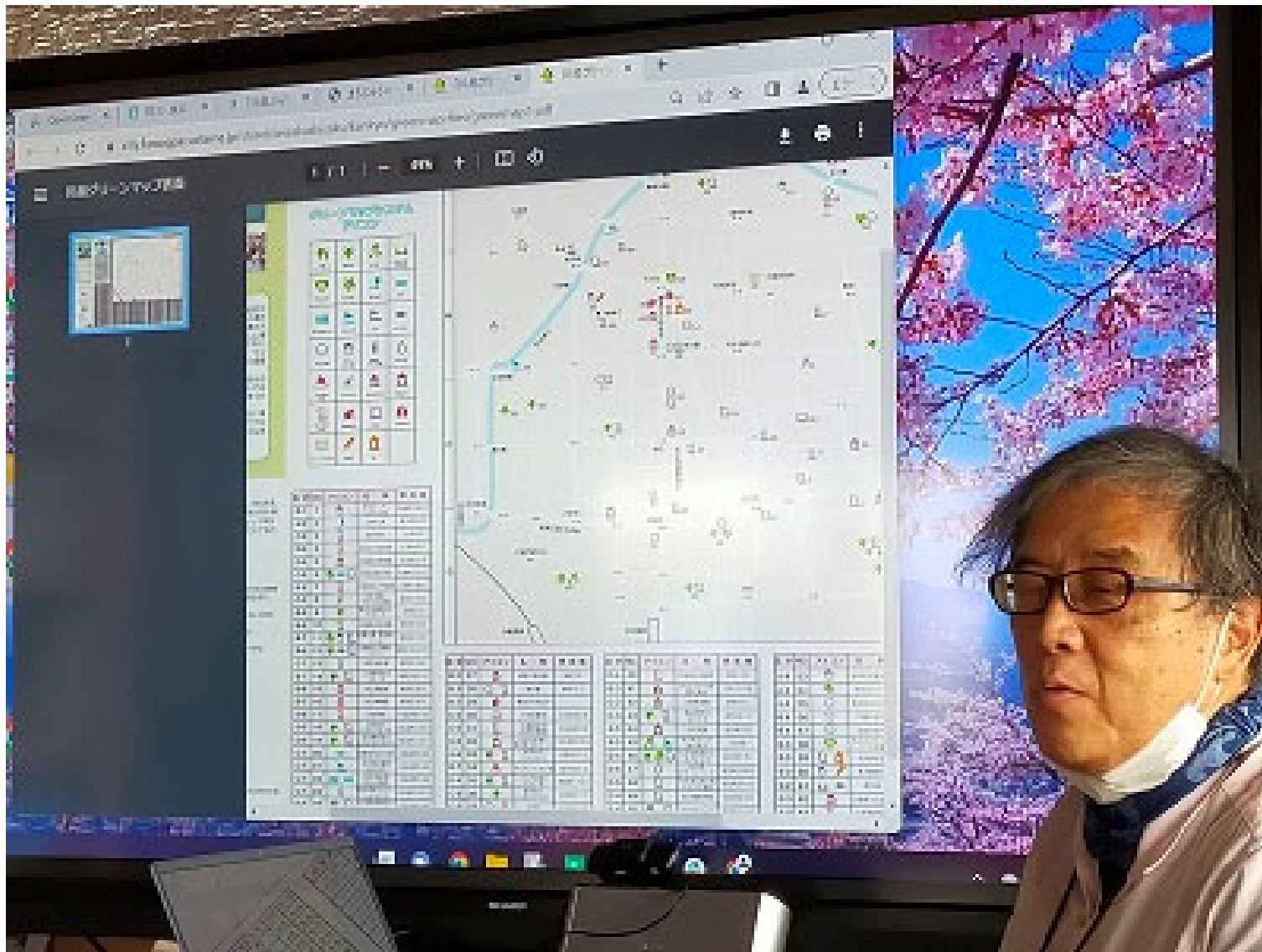
ウォークで撮影した写真のアップロード



地図上へのプロット（OSM経路のプロットは時間がかかりすぎ、後半は撮影者の指示による目視的プロットに）







■OSM使用の課題

OSMへの情報アップロードは時間がかかり、リアルタイムイベントとしての共有には不向きであることが判明



しかし、無料で地図フォーマットを共有・更新できる点は引き続き有効

web上で参加できる新しい形での展開で、空間的・時間的・身体状況的制約を超えた、**広がりのある防災の動きをつくる**ことができる

その後ひきつづき、被災者インタビュー映像上映会実施



ディスカッション

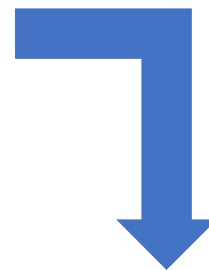
最後には当時の被災者や副市長を交えてディスカッション会



その後のOSM 整備 (10月中間報告会以降)

OSM活用の構造

OSMに連動していく基本サイト
(オリジナルサイト) ※本年度は仮制作



OSMサイト

OSM既存地図上に、「常総DRR」(作成者名)で吸い取外関連情報(文字情報のみ)を掲載していく



水害痕跡等写真

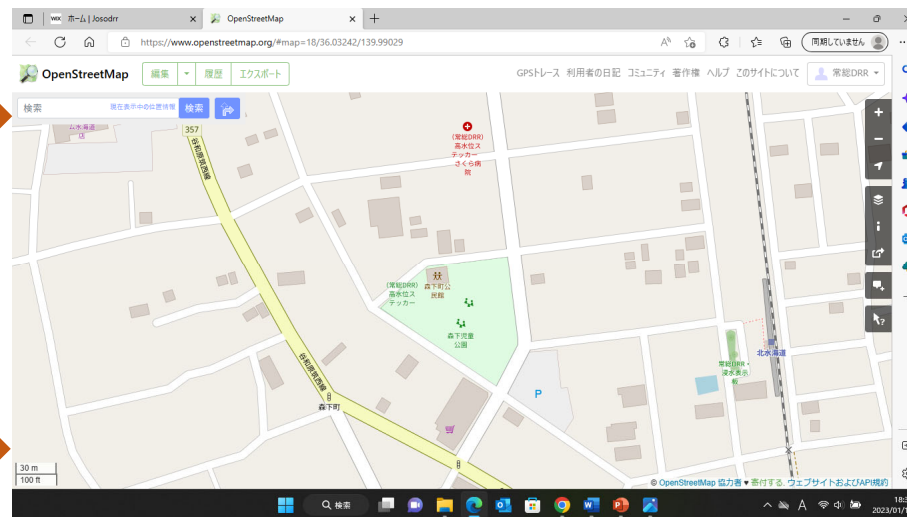
- ◎ 現在も残る高水位位置表示
(過去に当会が貼った高水位ステッカー)
- ◎ 河川関連施設
- ◎ 氾濫河川・用水路
- ◎ モニュメント

位置表示

被災体験インタビュー

- ◎ 現状6名の被災者インタビュー

位置表示



OSMに連動していく基本サイト (オリジナルサイト) ※本年度は仮制作



OSMに連動 (位置情報)

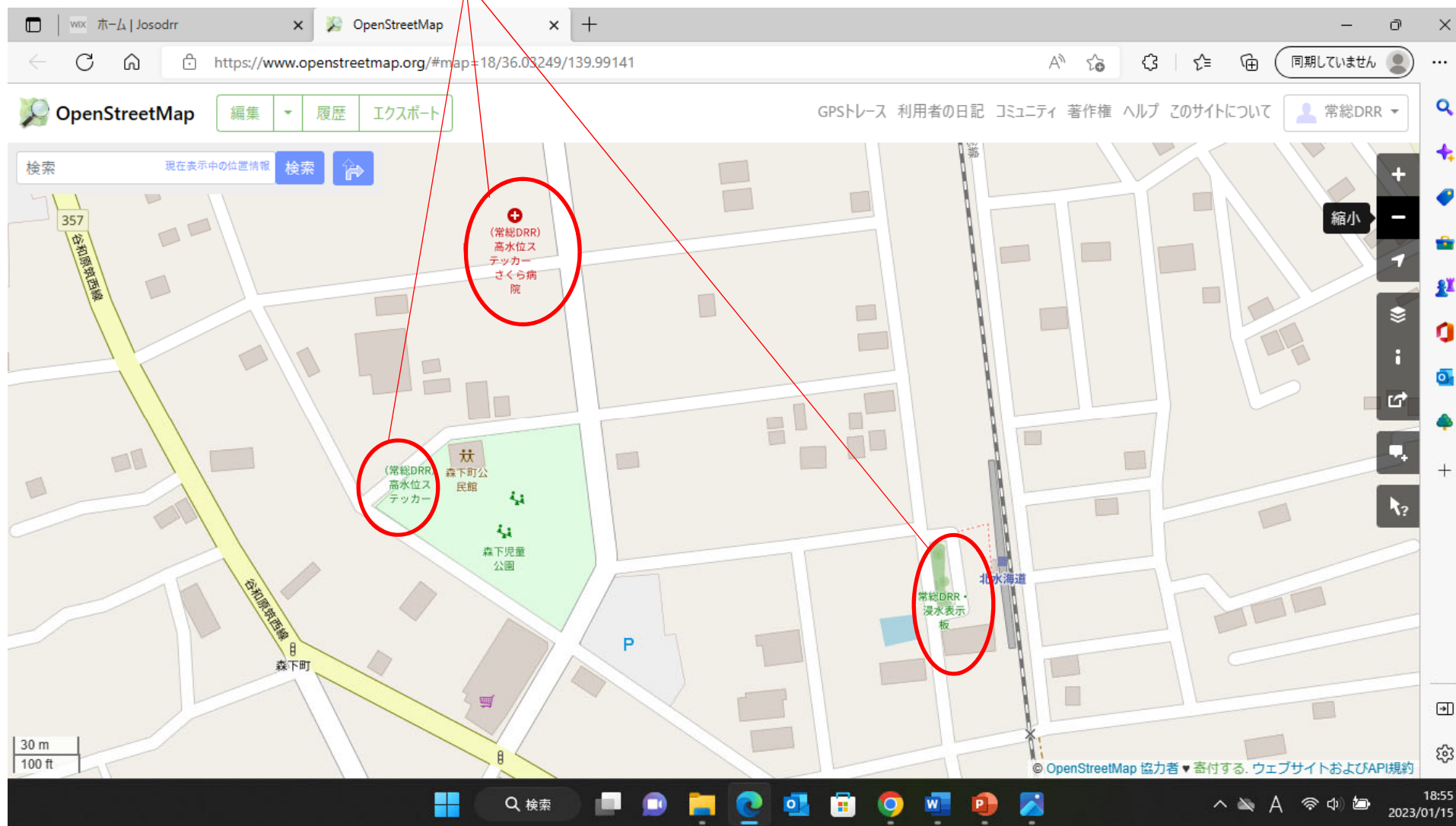
OSMに連動していく基本サイト (オリジナルサイト) ※本年度は仮制作

The screenshot shows a web browser window displaying a Wix blog page. The browser's address bar shows the URL <https://josodrr.wixsite.com/josodrr/my-blog>. At the top of the page, there is a banner that reads: "このホームページは WIX.com を使って作成されました。あなたも無料で作ってみませんか? [今すぐはじめる](#)".

The main content area features several blog posts. On the left, there is a post titled "S2" with a sub-heading "高水位ステッカー 森下公園倉庫 (森下町)" and a URL: <https://www.openstreetmap.org/#map=19/36.03235/139.98990>. To the right, there are two more posts. The top one is titled "水害インタビュー大生公民館長松本さん" and includes a video link: <https://www.openstreetmap.org/#map=19/36.04...>. The bottom one is titled "水害インタビュー森下町町会長" and includes a video link: <https://www.openstreetmap.org/node/10554040...>. This URL is circled in red, with a red arrow pointing to the text "OSMに連動 (位置情報)" located below the screenshot.

OSMに連動 (位置情報)

**(北水海道駅周辺) OSM上にプロットされた水害痕跡
(高水位位置表示箇所 = 高水位ステッカー残存箇所)**



今後、オリジナルサイトと連動させるかたちで地図上情報を充実化させることができる

実際のサイトを
共有して、みてみ
ます

■今後の展開

OSMをさらに充実化。

オープンストリートマップ」充実化を呼び水とし、かねてからその必要性が認識されてきた“水害資料館”をweb上で立ち上げていく準備活動を2023年度内をかけて継続実施する（水害資料館建設提案は行政に過去出しているがハード建設は予算的に不可能な為）。

リアル建築物としては（行政も）予算上構築が難しい『常総水害ボランティア顕彰館』をWeb上に建てるための準備活動を、新しい市民参加防災活動のかたちとしていく

■ 『常総水害ボランティア顕彰館』 (仮名)

2024年度以降にweb上に立ち上げる「館」は、“水害そのものの資料”を集め水害の事実を継承していく水害資料館というより、**当時全国から救援復興に駆けつけてくれた数多くの“ボランティア”を顕彰していく色合いの強い館**としたい

(水害そのもの」は多くの市民にとって“思い出したくない”負の記憶であるが、その復興に尽力いただいたボランティアの方々への感謝は被災された方々が皆口にする“心温まる共通経験”ともいえるものであり賛同者を得やすい)。

2023年度はその準備期間となる。

最後までご覧いただき
ありがとうございました。